絵本通宝志　上

絵本通宝志巻之七目録

龍魚之部

登龍　蜚龍　鴟吻

鮇鶹魚　満珠　巴　藻　鱅

藻出鯉　真草　葦に鯰

鮎　春　秋　藻て長鰕

蘆間蟹　毛亀

貘（ばく）

竹に虎（たけ・とら）

竹に猿猴
猿愛児

竹に栗鼠
狗に萩草

驢馬（うさぎうま）
竹萩ニ兎（たけはぎにうさぎ）

秋鹿

牧馬
春の牧

蓑乃牧

あき
秋

野飼
麻斑牛毛

龍魚之部

龍数種あり四霊の第一として形ふ又不 青赤黄白黒或ハ八大龍形ハ各とれ凡
宮殿に畫物先雲水湾潟花龍雌雄とゑがく或ハ手に宝珠を握る或ハ天井に蟠龍
水草藻と書き藻井と云ふ水難を除するのを火災をふせぐ為に図取似あり

飛龍（ひりやう）

鴟吻ハ頭龍ニ類を身魚ニ類ス尾鴟に類と能雲雰を起し大雨を降ス宮殿に畫者あり彩よ又色八々あり

鮢鞨魚　鮢鞨ハ國の名其國に有る故ニ名とハ北極界の魚也

北海大魚晝夜至十二時鯢声作此狀を木にて製而更ニ葺ハ作揶拆と名く亦北斗魁星の像を象則下ハ畫物是也又一種有鱅狀龍頭魚身全躰針を佩鎗鬣叙尾鮢鞨ニ相似たり其色黒し北方水色を兼鱅ハ能木氣を起し自在なると龍德あり故ニ瓦ニ製し屋棟ニ備く火災を辟或ハ蒲珠を置も亦蒲珠を口中ニ含すハも同意あり雄瓦の端ニ巴を畫き雌瓦の端ニ海藻を畫も皆水の縁による

藻出鯉

鯰
背鰭墨くま
上ミうす黄土かけ
腹ごふんくま
裏鬚白
眼中金
秋鮎
春鮎

手長鰕（てながえび）

仕立（しかて）すべて同前
後（うしろ）白くぬるべし

蘆間蟹（あしまのかに）

仕立（しかて）
總て同じ
鋏先より白ぬき
毛がき金泥
後ごふんうきと
ぬま

毛亀